

26年度 決算のあらまし

26年度の各会計決算がまとまり、9月の市議会定例会に提案しました。

一般会計

市の財政の柱となる一般会計の26年度決算額は、最終予算額1389億869万円に対し、歳入が1375億9271万円（執行率99・1％）、歳出が1348億5149万円（執行率97・1％）で、歳入歳出差引額は27億4122万円となりました。

これから27年度へ繰り越す6220万円を差し引いた実質収支額は、26億7902万円の黒字となりました。

26年度決算の主な事業

函館アリーナや函館フットボールパークの新築工事、函館市公民館の改修工事、戸井西部総合センター整備の実施設計を行ったほか、東消防署恵山出張所と榎法華出張所を統合した東消防署日ノ浜出張所の新築、五稜郭改良団地や校舎等の耐震改修工事など、地域の振興・発展に配慮しつつ、都市基盤や生活環境の整備に努めました。

このほか、北海道新幹線開業に向けたカウントダウンイ

ベントの開催や、首都圏・東北地区等でのキャンペーン実施に加え、外国人観光客誘致のため、東アジア、東南アジア地域において観光プロモーションを実施したほか、「はこだてグルメサーカス」の開

催や、五稜郭築造150年祭への支援等、観光イベントの充実に努めました。

また、中心市街地や地域経済の活性化のため、「中心市街地活性化基本計画」に基づき、「はこだてみらい館」お

（単位：万円）

表1 26年度 一般・特別会計決算

会計別	収入済額 (A)	支出済額 (B)	差引額 (A)-(B)=(C)	翌年度へ繰り越す 繰越き財源 (D)	実質収支額 (C)-(D)	
一般会計	1,375億9,271	1,348億5,149	27億4,122	6,220	26億7,902	
特別会計	港湾事業	40億1,711	39億9,312	2,399		2,399
	国民健康保険事業	340億6,478	344億 347	△3億3,869		△3億3,869
	自転車競走事業	156億8,033	162億 94	△5億2,061		△5億2,061
	奨学資金	4,288	3,913	375		375
	地方卸売市場事業	4億1,086	4億 439	647		647
	介護保険事業	260億7,378	253億9,210	6億8,168		6億8,168
	発電事業	3,052	2,540	512		512
	母子父子寡婦福祉 資金貸付事業	1億7,909	9,292	8,617		8,617
	後期高齢者医療事業	39億4,979	38億7,275	7,704		7,704
	小計	844億4,914	844億2,422	2,492		2,492
合計	2,220億4,185	2,192億7,571	27億6,614	6,220	27億 394	

よび「はこだてキッズプラザ」を設置する再開発ビルのフロアの取得や函館駅前電停の改築、市道ときわ通の歩道整備等を行ったほか、「函館駅前若松地区市街地再開発事業費補助金」や「函館本町地区優良建築物等整備事業費補助金」、「元氣いっぱい商店街等支援助交付金」などを交付しました。

今後の行財政運営

少子高齢化や人口の減少などにより、今後においても厳しい財政運営を強いられることが予測されるため、24年度に策定した「函館市行財政改革プラン2012」に基づき、これまで以上に効率的な行財政運営に努め、持続可能な財政基盤の確立を目指します。

特別会計

特別会計は、特定の収入を財源として事業を行うもので、一般会計から分離して収支経理を行っています。

26年度特別会計決算は、表1のとおりですが、国民健康保険事業特別会計および自転車競走事業特別会計では、赤字となっています。この不足分は、27年度の収入から繰り上げて充用し、補てんしています。

なお、港湾事業特別会計では、大町地区緑地（緑の島）において、駐車場などの整備を行いました。

企業会計

企業会計は、独立採算制をとっており、経済性を発揮するとともに公共の福祉を増進するよう努めています。

26年度企業会計決算は、表2のとおりです。

なお、企業会計には、一般会計からの繰入金50億8566万円が支出されています。

都市基盤の整備

市では厳しい財政状況のなかでも、都市基盤の整備に力を注いでいます。

26年度末では下水道普及率90・0％（前年比同）、道路舗装率75・7％（前年比0・3％増）となっています。

◎詳しい内容は市のHPに掲載しています。

お問合せ 財政課











☎21・3527

※ 水道・公共下水道・交通事業は企業局管理部経理課（☎27・8721）、病院事業は病院局管理部経理課（☎43・2000）へ。

1年間に市民1人当たりが負担する
市税の金額

120,857円

市民1人当たりの決算額

<p>民生費</p> <p>福祉の充実などに</p>  <p>185,791円</p>	<p>土木費</p> <p>道路や公園の整備などに</p>  <p>36,563円</p>
<p>商工費</p> <p>経済・観光振興などに</p>  <p>27,512円</p>	<p>教育費</p> <p>学校施設の整備などに</p>  <p>46,671円</p>
<p>衛生費</p> <p>清掃事業や保健対策などに</p>  <p>132,219円</p>	<p>総務費</p> <p>企画調整や税務、地域活動、防災活動、大学の運営などに</p>  <p>19,705円</p>
<p>消防費</p> <p>消防施設の整備などに</p>  <p>6,629円</p>	<p>公債費</p> <p>借入金の返済などに</p>  <p>53,191円</p>
<p>職員費</p> <p>職員の給与などに</p>  <p>65,286円</p>	<p>その他</p> <p>議会費、労働費、農林水産費、諸支出金など</p>  <p>26,571円</p>

※金額は、一般会計の決算額を27年3月31日現在の人口26万9,628人に割ったものです。

26年度 一般会計決算内訳

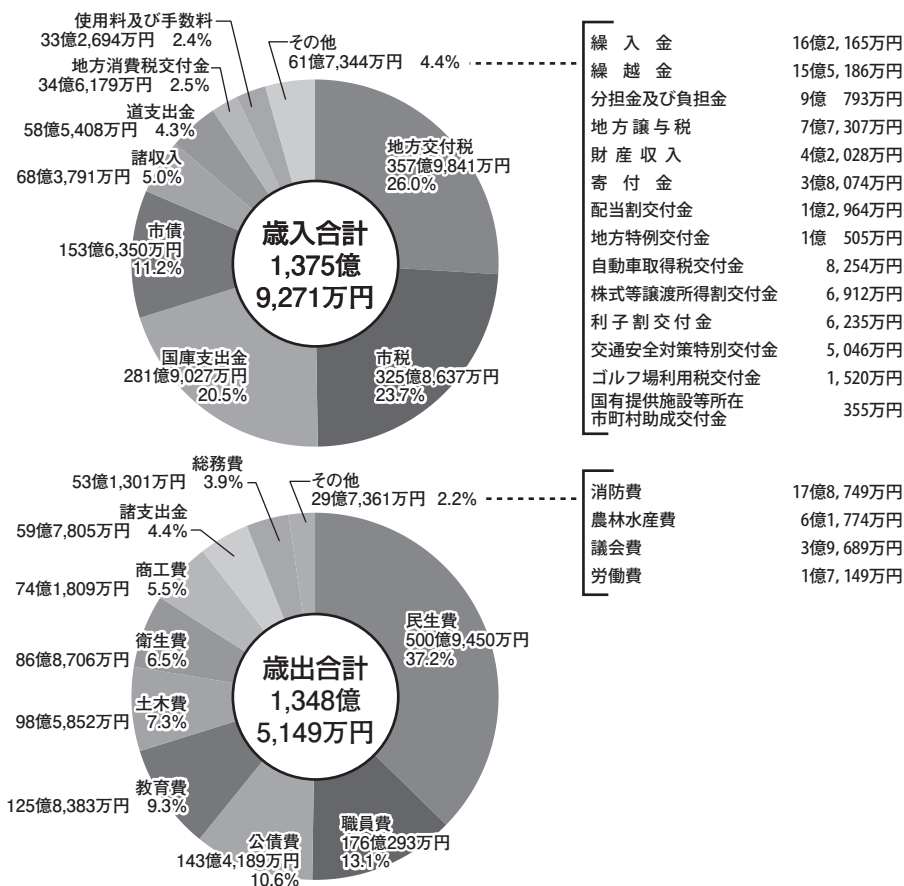


表2 26年度 公営企業会計決算

(単位:万円)

会計区分	収益的収支	資本的収支	純利益 純損失	累積財源 過不足額(注)	一般会計から の繰入金
水道事業	収入	49億 969	15億 397	△8億 427	22億7,972
	支出	55億8,609	31億8,677		
公共下水道事業	収入	79億2,583	28億2,882	4億6,201	18億5,500
	支出	74億1,310	51億3,835		
交通事業	収入	19億1,159	3億2,877	9,956	1億8,371
	支出	17億9,748	4億1,185		
病院事業	収入	200億2,756	25億9,941	△61億 364	△ 9億 438
	支出	260億8,071	32億5,823		
合計	収入	347億7,467	72億6,097	△63億4,634	34億1,405
	支出	408億7,738	119億9,520		

(注) 病院事業の累積財源過不足額は、健全化法の資金過不足額を用いて算出しています。

HP 健全化判断比率および資金不足比率の公表

お問合せ 財政課 ☎21-3543

財政健全化法により、各指標が基準を超えた場合、議会の議決を経て財政健全化計画を策定し、改善に取り組むこととなっています。26年度決算での指標の状況は、右図のとおりです。詳細は市のHPに掲載しています。

健全化判断比率 全ての指標で基準を下回っています。

資金不足比率 全ての会計で基準を下回っていますが、

病院事業で資金不足が生じています。

いずれの指標も基準以内となっていますが、これらはひとつの目安に過ぎないことから、今後も厳しい状況の中、さらなる財政の健全化を図っていきます。

★…26年度決算の状況

健全化判断比率	健全団体	早期健全団体	財政再生団体
		基準	基準
実質赤字比率 一般会計などの赤字を表す指標	★(黒字)	11.25%	20%
連結実質赤字比率 全会計の赤字を表す指標	★(黒字)	16.25%	30%
実質公債費比率 借金の返済費用の割合を表す指標	★7.9%	25%	35%
将来負担比率 一般会計などが将来負担すべき負債の割合を表す指標	★73.3%	350%	

財政状況 (良) ← → (悪)

資金不足比率	★5.3%(病院事業)
公営企業ごとの資金不足の割合を示す指標	★生じていない(※) 20%

健全団体 経営健全化団体

※ 水道、公共下水道、交通、地方卸売市場、発電の各事業